

昭和53年度定期総会開かる

昭和53年度定期総会議事録

日 時 昭和53年4月26日(水)午後2時00分～3時30分
場 所 鉄道会館ルビーホール

東京都千代田区丸の内1-9-1

出席者 北川一栄他681名(内委任状による出席651名)

上記のとおり出席者が定款に定める定足数に達したので、定款第28条により北川会長が議長となり、議事録署名人に、渡辺浩、藤野和建の両氏を選出して議事に入る。

第1号議案 昭和52年度事業報告の件

反町理事より、昭和52年度事業報告を行ない、異議なく承認された。

第2号議案 昭和52年度決算報告の件

山本理事より、昭和52年度決算報告を行ない、異議なく承認された。

第3号議案 昭和53年度事業計画の件

出居理事より、昭和53年度事業計画案を説明し、原案のとおり承認された。

第4号議案 昭和53年度予算案の件

山本理事より、昭和53年度収支予算案を説明し、原案のとおり承認された。

第5号議案 昭和53年度役員選任の件

昭和53年度の役員を選出した(次号掲載)。

第6号議案 昭和53年度評議員の件

昭和53、54年度の評議員を別掲のとおり選出した。

上記で議案の審議を終了し、第6回日本オペレーションズ・リサーチ学会文獻賞、第2回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞、第3回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞の発表ならびに表彰に入った。

原野表彰委員長より選考経過の説明があり、会長より第6回文獻賞は岩本誠一氏に、第2回実施賞は株式会社日立製作所に、第3回普及賞は、後藤正夫氏にそれぞれ授与された。

以上で総会の議事を終了し、議長は閉会を宣した。

昭和52年度事業報告

1. 研究発表会およびシンポジウム

(1) 3月17日、18日の両日、早稲田大学理工学部において、第41回研究発表会を開催し、19日には、日本出版販売(株)王子流通センターを見学した。

特別テーマ システム・ダイナミクスとその周辺

問題

特別講演2件、一般発表62件、ペーパーフェア19件
(2) 10月3日、4日の両日、広島大学工学部において第42回研究発表会を開催し、5日には、東洋工業(株)と宮島を見学した。

特別テーマ 実践的OR

特別講演1件、パネルディスカッション(ORの実践)、一般発表99件

(3) 3月16日、早稲田大学において、第5回シンポジウム「数理計画法」を開催した。

2. 総会

定期総会

4月25日、第一勧業銀行八重洲口支店会議室において、定期総会を開催した。

3. 理事会・評議員会

昭和52年4月より理事会を8回、評議員会を1回開催。

4. 各委員会

編集委員会 12回、IAOR委員会 7回、表彰委員会 2回、研究普及委員会 6回

5. 国際協力

(1) IAOR(International Abstracts in Operations Research)誌の発行に協力し、IAORの国内頒布を行なった。

(2) 第8回IFORS国際会議(1978年6月19日(月)～6月23日(金)カナダ・トロント)で発表される学会選出論文の決定をした。

6. 刊行物

「JORSJ」Vol. 20, No. 1, 2, 3, 4, 及び「オペレーションズ・リサーチ」第22巻第3号から第23巻第2号まで発行した。

7. 研究会活動

12の研究部会が活発な研究活動を行なった。

8. 表彰

(1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文獻賞

1) 第5回該当なし。

2) 第6回 “A Class of Inverse Theorems on Recursive Programming with Monotonicity” JORSJ, Vol. 20, No. 2 九州大学 岩本 誠一

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞

1) 第2回 森村 英典 東京工業大学

2) 第3回 後藤 正夫 参議院議員

- (3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞
- 1) 第1回 東亜燃料工業株式会社
 - 2) 第2回 株式会社日立製作所
9. 普及活動
- (1) ORサロン 第11回から第16回まで6回開催した
 - (2) 月例講演会 第58回から第64回まで7回開催した
(本部3回, 支部4回)
10. 支部活動 (表1参照)
11. 研究調査受託
環境庁よりの依頼による1件.
12. 会員状況 (2月末)
名誉会員6, 正会員1753, 学生会員245, 賛助会員101
13. 創立20周年記念事業
- (1) 懸賞論文
懸賞論文の募集を行ない下記の入選論文を決定し表彰した.
- 1席 該当なし
- 2席 OR: 来し方行く末 岸 尚 (防衛大)
- 2席 企業とOR: 1980年代を展望して
中筋 後輔, 近藤 正司, 藤田 栄二,
白石 晴久 (第一勧銀)
- 佳作 “オペレーションズ・リサーチ” の発展の

方向について 三平 武男 (川崎製鉄)

- (2) 記念講演会
各支部において本部より講師を派遣して6回の講演会を開催した.
- (3) 表彰
学会に功勞のあった下記の人々を表彰した.
会員: 小林宏治, 森口繁一, 横山勝義, 松田武彦
職員: 鈴木規子
- (4) 20周年記念備品の購入
学会用備品として U-Bix1500 を1台購入した.

昭和52年度決算報告 (単位 円)

- (1) 収入: 会費収入28,385,934 事業収入14,348,687
その他を含め歳入合計48,427,083
- (2) 支出: 事業費 29,762,457 運営費 16,030,022
歳出合計 45,792,479
当期残高 2,634,604
-

昭和53年度事業計画

1. 研究発表会, シンポジウムおよび総会
- (1) 研究発表会は, 春秋2回, 春季は5月31日, 6月1日に北海道において, 秋季は10月20日, 21日に東

表1 支部活動報告書

	北海道	東北	中部	関西	中国・四国	九州
運営会議	支部総会 1回 運営委員会 1回	支部総会 1回 運営委員会 3回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 3回	支部総会 1回 運営委員会 3回	支部総会 1回 幹事会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回
研究会	研究会 3回	研究会 3回	研究発表会 1回 研究会 7回 講演会 1回	研究会 7回		研究会 6回
講演会	月例講演会 1回 20周年記念講演会 1回	講演会 1回 20周年記念講演会 1回	月例講演会 1回 20周年記念講演会 1回	月例講演会 1回 20周年記念講演会 1回	20周年記念講演会 1回 その他 5回	月例講演会 1回 20周年記念講演会 1回
出版			支部ニュース12回 支部研究発表会7回 ブストラクト1回 支部会員名簿1回	パネル討論会「予測は何故はずれるか」1回		
その他			見学会 1回 懇親ソフトボール 1回 懇親会 1回	研究部会	秋季研究発表会 大会実行委員会 1回 大会運営担当委員会 6回	

京において開催する。

- (2) シンポジウムは10月19日青山学院大学で行なう。
- (3) 定期総会は4月26日東京において行なう。

- 2. 刊行物：機関誌を12号，論文誌を4号，その他報文集を適宜発行する。
- 3. 国際協力：第8回OR国際会議（1978年6月，カナダで開催）に視察団を派遣する。
- 4. 研究活動：既設の研究部会の活動を引きつづき推進

するとともに5部会を新設し，その活動を開始する。

- 5. その他 従来通り。

昭和53年度予算（単位 円）

- (1) 収入：会費 28,770,000 事業 14,989,800 その他を含め 合計 53,480,481
- (2) 支出：管理費 15,499,000 事業費 34,884,960 その他を含め 53,480,481

第6回日本OR学会文献賞

昭和52年度の文献賞は、表彰委員会の推薦により広島大学総合科学部助教岩本誠一氏の論文“A class of inverse theorems on recursive programming with monotonicity, JORSJ, Vol. 20, No. 2, 1977, pp. 92~112”に授与することを理事会において決定、同氏は4月26日開催の昭和53年度定期総会において表彰された。

選考理由

著者は従来から動的計画、とくにマルコフ決定過程への関心を示してきたが、1975年以後は有限ステップの問題におけるR. Bellmanの最適性の原理の発想から直接出発する形で「動的計画の逆定理」についての一連の研究の成果を約10篇の論文として内外の学術雑誌に発表し、当学会誌1977年7、8月号に逐次決定過程の意味について解説している。従来は単調増加だけ、または単調減少だけの場合を考えていたが、この論文では単調増加と単調減少の双方を含む形で成立することが結論づけられており、これは適用可能な問題範囲を大幅に拡大することに役立っている。さらに一方の問題の解から他方の問題の解を導く手順が明確化されるとともに、Bellman流の解法における反復過程の演算の作用素論的性格に関する将来の研究方向について、可能性が認められた。

以上の論文によって通常Bellman流の有限ステップの動的計画において表現されるタイプの問題を含む、より広い範囲を取り扱う場合に、一般的に主逆の問題対が存在し、その間において成立する逆関係を明確にすることができ、この関係によって既知の具体的な問題型に対して、新しい具体的問題例や関数関係が得られることとなった。これらの成果は理論的にもまた応用の面にも大いに貢献するところがあり、この分野の研究方法について将来の発展性を高めている。

岩本誠一氏略歴

昭和20年8月15日生

- 43年3月 九州大学理学部数学科卒業
- 45年3月 同大学院理学研究科終了(数学専攻)
- 45年4月 味の素(株)中央研究所入社
- 46年4月 福岡大学理学部講師
- 47年7月 九州大学理学部助手
- 51年6月 同講師
- 53年4月 広島大学総合科学部助教 現在に至る

第2回日本OR学会実施賞

昭和52年度の実施賞は、表彰委員会の推薦により株式会社日立製作所に授与することを理事会において決定し、4月26日開催の昭和53年度定期総会において表彰された。

岩本さんのプロフィール

岩本さん、OR学会文献賞の受賞おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

現在の所属は広島大学ですが、生粋の九州男児で、九州大学理学部の計画数学講座では、北川敏男先生ならびに古川長太先生のご指導を受けられました。当時私は同じ講座の学生で、それ以来多くのご教示をいただいています。彼は確率的決定過程のゼミをしていて、数年後、古川先生と共同で、Stopped Decision Processと名付けて発表されました。このときに、培われた数理計画の概念が、いくつかの段階を経て、今日の動的計画論として開花したものと思います。動的計画で発表された結果のうち、とくに、線形計画における双対定理に対応したInverse



Theoremが彼の理論の中でひとときわ光彩を放っています。またこの定理がたんに理論的探求だけでなく、制御過程、配分過程など広範囲にわたる応用をめざし、次々と発表されつつあるので、これからは、とくに応用分野の研究者に期待されるのではないのでしょうか。

岩本さんには質実剛健という言葉がピッタリです。当然、多くの人たちからの信望も厚く、その幅広い知識や問題に対する鋭い洞察力が、若手研究者からの信頼を築いています。九大のときには昼休みに若い仲間たちといっしょにソフトボールをしたものでした。運動神経が抜群で、スポーツマンらしい晴朗さやバイタリティーをそなえていて、このことがいっそう岩本さんの人柄のよさを増しています。頭脳明晰でだからも慕われる人物というわけです。

岩本さんがOR研究者のリーディング・ヒッターとして、これからもなおいっそう活躍されることを期待しております。(安田正実 記)

選考理由

日立製作所は電機メーカーとして国内の重鎮であるのみならず、世界の日立として国外に雄飛しているのは周知の事実である。同社はORの重要性をつとに認識され昭和26年に品質管理部会の中にOR分科会をつくり企業内におけるORの導入、普及および実施をはかられた。その後この部会は次第に規模を拡大して、経営ならびにエンジニアリングの両面に関するOR手法の研究、実施およびORマンの教育に努力されてきた。現在この分科会は各工場、研究所より派遣された課長クラスの専門家20名により構成され、ORの実践部隊に対して発言権をもちこれを指導している。また各工場ならびに研究所においては分科会がつくられ、それぞれの場所で発生する問題に取り組んでいる。とくにシステム研究所においては生産システム、公益システム等の広い範囲にわたるシステムの開発にあたってORを駆使している。

同社ではOR実施の鍵はORマンの養成にあることを認識され、OR教育にも重点を置き努力を重ねられ過去5年間に於いて300名にのぼる社員がこの教育に参加している。またこれらの人々を中心とする研究・実施は過去10年間に、経営関係14件、開発関係108件、生産関係225件、計430件にのぼり、その成果は論文として外部に発表されている。ちなみにOR学会における春秋発表会における発表件数は企業の中では群をぬいている。

以上同社におけるORの組織および教育の確立、旺盛なる実施活動とその成果の発表等を考慮して実施賞を受けるに値するものと考えて、実施賞の授与を決定した。

第3回日本OR学会普及賞

昭和52年度の普及賞は、表彰委員会の推薦により参議議員後藤正夫氏に授与することを理事会で決定、4月26日開催の昭和53年度定期総会において表彰された。

選考理由

最近ルーツを尋ねることが流行し、種々のルーツが話題となっている。日本におけるオペレーションズ・リサー

チのルーツをさぐると後藤先生のオペレーションズ・リサーチ導入に対する御努力を無視することはできない。

第二次世界大戦の終焉もないころ、日本は昏迷の中にあつた。総理府統計委員会の基準課長に在職された先生はワシントンにおけるISI総会の報文集よりイエーツの“第二次世界大戦における英国のOR”という論文に着目され、オペレーションズ・リサーチの必要性を関係方面に紹介された。これが日本におけるオペレーションズ・リサーチの草分けといえるであろう。ついで、昭和24年にはベルンで開催されたISI総会の報文からORの論文を蒐集し検討をはじめられ、さらに昭和26年に行なわれた第二次ライス統計視察団の報告書の中で日本の官庁統計機関はオペレーションズ・リサーチを行なうべきであるという勧告がなされ、これが官、学、産業界の有識者の関心を高めるために役立った。モース、キンボール共著の“オペレーションズ・リサーチの方法”はORの原典ともいわれるもので、先生は昭和27年にこれ入手し中原、久慈、田原の諸氏とともに輪読をはじめられ、その後この翻訳が出版された。これが日本におけるオペレーションズ・リサーチの単行本として出版された第一号である。

昭和31年にはOR学会創立準備の発起人の一人として規約の作成にあたられ、32年の設立総会では仮議長をつとめられた。その後も学会の発展に貢献され、法人化、IFORS国際会議の日本開催に関しても多大なる活躍をされました。先生こそ日本におけるOR普及の第一人者である。以上の理由で第3回普及賞を後藤先生に授与することを決定した。

学会会合記録

	()内は人数
総会	4月26日(水) (29)
研究普及委員会	5月8日(月) (12)
編集委員会	5月11日(木) (11)
理事会	5月17日(水) (9)

オペレーションズ・リサーチ

昭和53年6月号 第23巻 (新シリーズ第3巻) 6号 通巻210号
代表者 北川 一 栄
発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
〒113 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2)
編集人 奥野 忠 一
発売所 株式会社 日科技連出版社
〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 650円 (郵送料含) 年間予約購読料 7,200円 (郵送料含)

本誌への広告お申し込みは日経弘報社(563-2241)、明報社(571-2548)へ